

長崎県議会:金子前知事を告発 百条委出頭拒否

【毎日新聞・6月1日】長崎県議会は1日、百条委員会に証人として出頭を求めたが、正当な理由がなく拒否したとして、前知事の子原二郎参院議員(自民)を地方自治法違反容疑で長崎地検に告発した。同じく出頭拒否した元農水政務官の谷川弥一衆院議員(自民)についても告発する動議を6日、本会議で採決する。県議会が前知事や国会議員を告発するのは異例。

百条委は、国営諫早湾干拓事業の入植者に、金子氏と谷川氏の親族が役員を務める法人が含まれていたことについて、選定が公平公正だったかを調査するとして、金子氏に証人として出頭を求めた。しかし、金子氏は「便宜供与を働きかけたなどの疑惑はいずれも事実無根」などとして拒否。県議会は5月23日、「出頭拒否の正当な理由に該当しない」として、告発を賛成多数で議決した。

百条委出頭拒否 谷川議員告発 長崎県議会

【西日本新聞・6月7日】長崎県議会は6日、前知事の子原二郎参院議員と自民党の谷川弥一衆院議員(比例九州)の親族企業が諫早湾干拓農地に入植した経緯をめぐる調査特別委員会(百条委)の出頭要請を正当な理由な

く拒否したとして、谷川氏を地方自治法違反の疑いで長崎地検に告発する動議を賛成多数で可決した。近く告発状を提出する。

百条委は5月26日の委員会に証人として出頭を求めた。谷川氏は拒否した理由について、「政争の具として百条調査権を乱用してきた委員会に証人出頭を請求する一片の正当性もない」とするコメントを発表している。

諫早開門問題で賛成派が初出席 長崎県議会

【西日本新聞・5月30日】29日の県議会農水経済委員会に、諫早湾干拓事業潮受け堤防排水門の開門賛成派が初めて参考人として出席した。国に開門を求めた訴訟の馬奈木昭雄弁護士は「いさかいはもうやめよう。(長崎県が主張する開門で)被害が出ることにについては対策を十分に話し合おう」と呼び掛けた。

福岡高裁判決の確定で国は開門義務を負っており、馬奈木氏は「行政機関は裁判所の判決に従わないといけない。それが国のルール」と述べた。

山田博司委員長は「県議会は反対の立場だが皆さんの意見を参考に解決の糸口を見いだしたい」と語った。

排水門の早期開門を要請 ベントス学会

「環境変化が進行」

【長崎新聞・6月8日】エビやカニ、貝類など底生生物の研究者約500人で行く「日本ベントス学会」自然環境保全委員会(佐藤正典委員長)は7日、国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の早期開門を求める要望書を県に提出した。

国に開門調査を命じた2010年の福岡高裁判決確定から1年半たった現在も、県などが開門に反対していることを受けて提出した。

要望書では、開門の遅れが湾奥部特有の生物の死滅や漁業の崩壊といった事態をもたらす恐れがあると指摘。特に開門を急ぐべき理由として▽閉め切りに伴う有明海の環境変化が加速度的に進行している可能性がある▽アオコが産出する有毒物質が調整池の水や底泥から検出され、濃度は年々高まっている一の2点を挙げていた。

県諫早湾干拓課に要望書を提出後、会見した佐藤委員長は「諫早湾は本来、日本でも生産性の高い場所で、有明海内外の漁業を支えていた可能性もある。行政の早期のカジ取りをお願いしたい」と話した。同委員会は同日、諫早市にも同じ要望書を提出。8日には国に対しても要望書を提出するという。

諫早湾締め切り即刻 全面開門を

【佐賀新聞・5月21日】有明海を頼りに生活する漁業者の反対を押し切り、「宝の海」を一時的に閉め切った農水省。時の流れは早く、閉め切った15年が経過した。

長い裁判闘争の末、判決は開門を命じるものだった。当時の菅直人前首相がこれを受け入れたのに、所管する農水省官僚は断固として判決に従わなかった。

これは、人間で言えばそのまま拘留を続行しているのと同じではないだろうか。

何のための三権分立なのか。開門したくないため、何かと難癖をつけ開門準備に必要と59億円の予算措置をしただけだった。

開門工事となれば相当な予算が必要であるのに対し、国は借金生活を強いられている。

諫早湾を閉め切って15年が過ぎ、漁民は泣き苦しんでいる。私たち沿岸住民にしても、閉め切り前までは新鮮で、安く、また美味しい海の幸をお腹いっぱい食べていた。

不漁が続く中、漁民が転廃業に追い込まれている実態をメディアの報道で知っている。

「即刻、全面開門」によってのみ、漁民の長き苦しみが開放され、併せて「宝の海」が復活すると確信する。(76歳・市民)